

富山県鑿井協会 第7回定期総会

第7回(平成14年度)定期総会で挨拶する内山会長
長 富山第一ホテル



監事 丸田勝文
理事 土合一弘
副会長 土合拓也
専務理事 土肥勝則
会長 内山祐治

富山県鑿井協会第7回(平成14年度)定期総会が富山第一ホテルにて平成14年5月17日(金)午後3時30分より開催された。当日は、全協会員が出席し、8件の議案について審議が行われ、原案通り議決承認された。また、第7回定期総会終了後には懇親会が開催され、会員と賛助会員との親睦を深めた。

議案	承認の件
第1号議案	平成13年度会議実施報告承認の件
第2号議案	平成13年度事業実施報告承認の件
第3号議案	平成13年度収支決算承認 及び会計監査実施報告の件
第4号議案	平成14年度退会承認の件
第5号議案	平成14年度事業計画(案)承認の件
第6号議案	平成14年度収支予算(案)承認の件
第7号議案	平成14年度会費の額及び徴収方法決定の件
第8号議案	平成14年度技術部会長選任の件
第9号議案	その他

調整部会	調整事項
1. 関係官公庁への陳情及び要望の実施	
2. 井戸コンサル	
3. 商品の販売戦略	
4. 正会員及び賛助会員の拡大	
5. 『井戸の日』実行委員会設置	
1. 人材の育成	
2. 雇用対策	
3. 会員相互の親睦及び研修会の実施	
4. 安全衛生講習会の実施	
5. パンフレットの出版	
6. 会員規定の制定	

技術部会	技術事項
1. 設計・積算講習会の実施	
2. 技術交流会及び適正工事の研究	
3. ホームページの更新及び維持管理	
4. 開発処理に伴う観測井の設置要綱作成	
5. 開費事業費設計上の要綱作成	
6. 古井戸の埋め戻し工法の検討	
7. 地下水涵養方法の検討	

Ecoフレッド

Vol.4

【発行】平成14年7月
富山県鑿井協会

〒930-0992 富山市新庄町一丁目十九番三号
☎076-444-1257
☎076-444-1287
URL: http://www.atw.ne.jp/~tomisaku/
E-mail: tomisaku@atw.ne.jp

第2回安全大会開催

第2回安全大会が平成14年7月5日(金)午後1時30分より富山地域職業訓練センターにおいて協会員13名、賛助会員7名、総勢20名が参加し、開催された。建設業労働災害防止協会富山県支部 専務理事 澤武勝弘氏より職場におけるリーダーには的確な判断力や失敗の予想から回避できる教育の必要がある。過去の労働災害より人の災害は自分の災害として考える。”小さな失敗を見逃すな 大きな失敗への警鐘である”とし、失敗を知的財産として共有し(同じ事を繰り返さない為に評価して使う)対処を立てていくことが大切である。また、①‘経営者の失敗:1’、‘組織の失敗:29’、‘作業中の失敗:300’という失敗における比率。②無理をしない。③思い込みや誤った判断を招く作業手順をしない。④無知による失敗が多い。の4点を念頭におき、安全管理に務めてほしいと説明がありました。

また、(株)安全性研究センター 常務取締役 青木正俊氏より今日、環境問題が問われている原因には‘人口の増加’が背景にあるとし、改めて環境保護制度や規制等について説明がありました。
[京都議定書] 2008~2012年の目標期間に先進各国が達成すべき温室効果ガスの削減目標を定めるもので、1997年12月、国連気候変動枠組み条約第3回締約国会議(COP3)京都会議の議定書。

- ・先進国温室効果ガス排出量について、法的拘束力のある数値目標を各国毎に設定。
- ・国際的に協調して目標を達成するための仕組みを導入。
- ・途上国に対しては数値目標などの新たな義務は導入しない。
- ・数値目標。(先進国全体で少なくとも5%削減を目指す)

[PRTR法]

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律。

[ダイオキシン類対策特別措置法]

排出ガス及び排水に関し、特定施設の設置、構造など変更時の届出義務や年1回のダイオキシン類濃度の測定及び測定結果の知事報告等のダイオキシン類による環境の汚染防止及び除去等をするための基準及び規制、汚染土壌に関わる措置等を定めている。

[ISO14000シリーズ]

環境方針及び目的を明確にし、自らの活動や製品・サービスが環境に及ぼす影響を管理・改善することによって健全な環境パフォーマンスを達成することを目的としたシステム規格。

[環境会計]

企業や組織の環境保全への取組をより定量的に評価するための枠組みのひとつ。

[土壌汚染対策法]

有害物質による土壌汚染事例の判明件数の増加が著しく、土壌汚染による健康影響の懸念や対策の確立への社会的要請が強まっている状況を踏まえ、国民の安全と安心の確保を図るため、土壌汚染の状況の把握、土壌汚染による人の健康被害の防止に関する措置等の土壌汚染対策を実施する内容。

◆次第

- 一 「失敗に学ぶ安全管理」
講師 建設業労働災害防止協会富山県支部
専務理事 澤武勝弘氏
- 一 「環境工学」
講師 (株)安全性研究センター
常務取締役 青木正俊氏



環境にまつわる問題等について講演される青木氏

部 会 報 告

総務部会

近年、大手企業の不況型倒産が急増し、それに伴い、雇用問題も深刻な状況となっております。

総務部会では前年度よりの継続事業を更に一新させると共に、雇用対策の一環として技術部会と連携して業界のイメージアップにつながる内容を計画していきたいと考えております。

今年度も微力ながら業界の発展に努めてまいりますので、皆様方には更なるご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

技術部会

今年度の活動計画といたしまして昨年10月にホームページを立ち上げましたが内容の充実度が今ひとつのため、井戸にまつわる些細なことや業界の為になる話、一般の方にも判り易い内容で拡充を図りたいと思います。他の事業計画につきましては、ほとんどが環境に対する問題で関係官公庁に対する要望や対策を打ち出し業界としてアピールしていきたいと思っております。同時に新しい技術を検索しながらよりいいものを紹介していきたいと思っておりますので今後も会員の方々の情報提供や技術検討の参加ご協力をお願いします。

富山県鑿井協会パンフレット

この度、協会では私たち会員が取り組んでいる再生・調査・広報・技術開発の4つの観点からまとめたパンフレットが完成致しました。詳しい内容はHPにてご覧いただけます。



この度、第3回世界水フォーラム(大阪・京都・滋賀開催)に先立ち、富山国際会議場においてプレフォーラムが開催されることになりました。

本プレフォーラムは水資源としての地下水が果たす役割や今後の開発・発展や保全方向などについて、国際的な情報交換・知見の結集を行うことを目的としており、同時に、子供たちから一般市民に地域の水環境保全について考える場を提供したいと考えております。つきましては下記の通りご案内いたしますので多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

【お申し込み・お問い合わせ】

入場無料。参加希望される方は下記へ直接、お問い合わせ下さいませようお願いいたします。

主催：富山県世界水プレフォーラム in Toyama 実行委員会事務局/富山県立大学短期大学部
〒939-0398 富山県射水郡小杉町黒河5180
TEL(0766)56-7500 FAX(0766)56-0396 E-mail kusui@pu-toyama.ac.jp

◆ プログラム

8月19日(月)		
9:10~14:40	セッションI	世界の地下水問題
15:00~18:00	セッションII	日本の地下水問題
8月20日(火)		
9:30~12:00	セッションIII	学校の活動事例報告
13:00~14:00	基調講演	「知って欲しい地球のすばらしい自然像 —地球環境問題に対峙して—」
14:00~15:00	特別講演	「地下水の集約的使用」
15:30~17:00	シンポジウム	「庄川扇状地の地下水」

水にまつわるエピソード

深井戸水中ポンプの怪

丸田工業(株) 代表取締役丸田信夫氏

ときは平成十年の二月。寒さ厳しい激動の二十世紀末、その年明けのころ……。 「水の蛇口よりお湯が出るので来て欲しい」との電話が入る。何事が起きたのかと現場へ急行して状況を聞くと数日前までは14℃前後の水が出ていたのだが、徐々に暖かくなり、今では27℃の「お湯」になっているとのこと……。外気温は2℃前後であり、雪もちらつく季節、場所は黒部市宮野山公園近くである。本井戸は深度約200m、使用水中ポンプは100A×30kw、ポンプ設置位置はGL(-)70m。設計揚水量は約1,200ℓ/min、事業用と消雪に使用中で、室外にある圧力タンクは3,000ℓでON/OFF制御で平成元年に完成、約10年使用していた。まず、タンク水の逆止弁不良とポンプの空転を想定して調査を開始した。水中ポンプ空転なし。電流Aメーター正常。電圧正常、異常音なし。揚水量約400ℓ/min正常。ポンプ絶縁抵抗正常値内。圧力タンクON/OFFスイッチ2~3k、正常運転。その施設担当電気保安管理者にタンク廻り及び水中ポンプの漏電等を調査してもらうが、異常は無いとのこと。ポンプメーカーに状況を説明し、水温上昇が起りうるかを問い合わせたが、そのようなことは絶対起り得ないとのこと。その後数週間、温度の記録をとりながら様子を見ることにして、近くの深井戸の水温調査を行うことになった。糸魚川-静岡構造線(フォッサマグナ)による立山連峰の隆起の地下深部にはマグマの活動が続いているといわれている。何らかの変動が起きたのでは? 現井戸より直線距離約300m付近に深度80m井戸があり、揚水量400ℓ/min、水温14℃で異常なし。400m地点の深度800m井戸(温泉用に掘削)は水温13℃、自噴圧3.09m²/kgにて異常なし。約700m離れているとことにある深度180mの井戸も、水温14℃で異常なしであった。以上の調査結果、地下水脈の水温等に異常を感知できず、地殻等に問題はないと判断、「平成新山」出現のおそれが無いとわかり胸をなで下ろした。結局、使用揚水ポンプに何らかの異常が起き、水温が上昇しているのでは、ということになり、ポンプヘッドの空気弁部より採水、温度測定を行うと21℃あり、平常時との差は7℃あった。約1週間の温度記録では朝の運転開始時は高く、最高28℃を記録したが、日中は21~23℃であったとのことである。揚水量も約400ℓ/minで設置時より低下していることでもあり、ポンプが故障し断水状態になると代替水源もなく、操業できなくなるため早急に水中ポンプの入れ替えの必要性が生じた。幸いにも4月上旬に断水もなく、新ポンプ設置も完了、水温も正常の14℃にもどり、新世紀2年目の現在も正常に稼働している。当社は40年余りもながく井戸、揚水設備等に関わっているが、今回のような「怪」は初めての経験であった。この時の水温上昇の原因が解明できれば新エネルギー開発に貢献できるのでは? 暑さ厳しい折、皆様の健康をご祈念申し上げます。

【編集後記】

日本列島を「梅雨明け」が宣告されましたが、今夏の旺盛な水情勢には期待できるのでしょうか。今後も水環境を守るため、出来る限り力を注いでいきたいと考えております。 —総務部—

水にまつわるいい話し

イトウ重機工業(株) 代表取締役 伊藤光雄氏

水にまつわる諺に「水に流す」「立ち板に水」「水で頭を冷やす」「水に入り」等々水にまつわる諺が数多くある。水は温めると湯となり蒸気となる。逆に冷やすと凍ったり雪などになる。色を落とせば又簡単にどのような色にも染まってしまう。水の力は百万貫の石も動かせば、電気の源としての力ともなってくる。

言うまでもなく動植物体の70~90%が水分で占められており生存上欠く事のできないものである。近年、空気も水も著しく汚染されておる状態で、生きる為に絶対欠くことのできないそれらの環境資源を守らなければならないと思う。人の幸せは色々あると思うが、渴きを癒すとき、コップ一杯の「お冷や」は最高最大のごちそうである。



(社)全国鑿井協会北陸支部情報

(社)全国鑿井協会北陸支部 平成14年度通常総会が石川県土質研究協同組合にて平成14年5月15日(水)午後1時30分より開催され、当日は5件の議案について審議が行われた。

【議題】

- 第1号議案 平成13年度会務並びに事業実施報告
- 第2号議案 平成13年度収支決算承認の件及び会計監査実施報告
- 第3号議案 平成14年度事業計画及び収支予算(案)承認の件
- 第4号議案 会員入会報告
- 第5号議案 その他

私が目撃した衝撃の現場



富山市太田地内
平成14年7月撮影

所用で富山市太田地内を走行中、前方に停車中の警察車両から視線をずらすと……。あまりに驚愕の光景から運転者の安否を気づかいつつも、この不可解な事故原因には謎が残りました。